

ゴミゼロ通信



発行
「ゴミゼロ通信」静岡
岡市市民ネットワーク
編集責任
壺阪道也

「甲斐の武田信玄」「越後の上杉謙信」恐るべし！
「スペースふう・山梨」
「4万人のごみゼロプロジェクト・新潟」
来静

山梨の「スペースふう」さん(NPO Space Fun エフ http://www.spacefun.net)よりの「...全国各地でリユース食器を導入するイベントもひろまってきてサッカーV.F甲府でもいろいろな取り組みが目立って清水エスパルスから問合せがきました。早速私もから連絡をとったのですが協力してくれる環境団体等がないと導入は難しい...というお話でした。...」との情報を元に、昨日静岡市アイセル21の会議室で「清水エスパルスでのデポジットを考える」集まりを持ちました。定刻の1時半〜5時までびっしりとあついで話を聞きました。

参加者 「スペースふう」より2名、「4万人のごみゼロプロジェクト・新潟」より2名、磐田体育協会(ジュビロ磐田)を含む西部2名 東海大のCO4名、県大1名、一般7名 計18名。

リユースカップ・エスパルスで リユースカップを考える

- 1~2面 エスパルスでリユースカップを考える
- 3~4面 鎌倉市は環境都市か?
- 4面 灰溶融炉情報公開資料

一万三千人の町から全国を変える！

まずは、NPO法人「スペースふう」さんとは？

99年にリサイクルショップからスタートした。当初は増穂町の総合的な町づくりをめざしていたとのこと。ところが、02年からリユース食器のレンタル事業に事業転換し、全国へ食器貸し出しを開始。今まで、文字通り、北海道から九州まで全国に約百万個の食器貸し出しを実施。だが、これでは運送のエネルギー消費もばかにならないと、



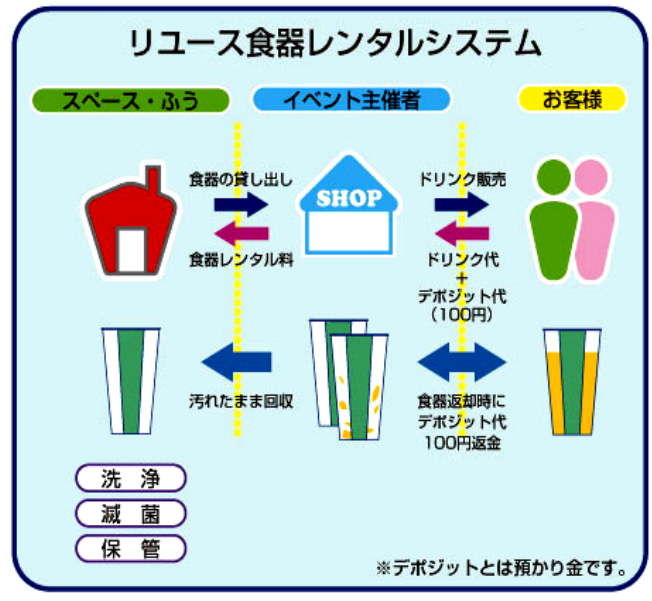
今では全国に拠点づくり。岩手、九州、関東など、提携して食器レンタル事業がすでに始まっているという。

03年には環境省・経済産業省のモデル事業にも認定され、その資金を元に?03年から、当時」

2だったV.F甲府(小瀬スポーツ公園)でのカップデポジット事業を開始。

その中身もさることながら、永井理事長の熱弁ぶりには、感激・感動。環境省を動かすこと、増穂町と共催で第

一回全国リユース食器フォーラム開催したこと(リユース食器ネットワーク http://www.reuse-network.jp/index.html)



そもそも、リサイクルショップからレンタル食器事業を開始するに当たったのは、決断のこつと等々、けつして平坦ではなかった。今まで、それを支えたのは、「使い捨て食器No!」が日本を変えるという思いだったと言う。永井寛子さんで、検索してみると、出てくる出てくる全国各地での講演録。スペースふうさんは、映画館でのリユースカップ導入など、あらゆる知恵をしぼって「使い捨て食器No!」を実践しているようだ。ただ、ただ圧倒されるばかり。

VF甲府でのリユース カップ

実施に向け、第一スポンサー(株)はくばくを味方につけ、難敵を撃破してスタートにこぎつけたとのこと。通常の売店で紙コップが約10円。しかし、ふうさんのレンタルカップは25円。これでは、売店が使えない。差額は15円をエコ企業の協賛金と環境省の補助金を使って、捻出。

回収は完全ボランティアで1試合10〜40人くらい。

回収所では、カップの回収と、デポジット金1000円の返金作業。でも、ボランティアが忙しいのは始まりとハーファタイム、試合後。つまり、「リーグが無料で観戦できる! エコキッズという名前で子供達もボランティアに参加。

新潟がすごい

「四万人のごみゼロプロジェクト」(<http://www.soiga.com/tmp/kyoyu/santogu/50/>)の永澤由紀子さんもやってきてくれた。新潟では、会場内の20の売店で、回収

も同時にやっているという。

つまり、回収ボランティアなし。カップを返却する際に百円戻す。そのお金でつまみを買う等々の売店にとつての売り上げ増効果もあり、これが実施されているとのこと。永澤さんは、ゴミゼロ通信に対しても、よく返信をくれたり、ごみゼロサミット2006には紹介資料も送ってくれたりした方。5時間かけて、遠路はるばるきていただいた。頭が下がります。

甲斐の武田(スペースふう)と越後の上杉(4万人のごみゼロプロジェクト)に攻め込まれて

「じゃあ静岡でどうするの?」ですね。

西部より来て頂いたNPO法人磐田市体育協会は、ジュピロ磐田のホームゲームでのチケットもぎりなどボランティア活動をしている団体。リーグの各チームは環境配慮には神経を使っているという。具体的活動をしているジュピロ磐田には、その導入にチャンスありと見えた

「スペースふう」さんの食器レンタルメニュー

-  ペタルカップ
500ml @25yen
-  こざら
190mm @25yen
-  おおざら
220mm @25yen
-  おわん
107mm x 63mm @25yen
-  どんぶり
145mm x 70mm @25yen
-  カップ
200ml @13yen
-  箸・スプーン大小 @6yen

エスパルスからは、直接ふうさんへ申し入れがあったのでなく、VF甲府へだそうだ。エスパルスとの折衝窓口は、ふうさんが紹介するが、実際に何度か折衝しなければならぬだろう。方式、金銭負担のあり方、など道筋や方法論の選択肢はかなり見えてきたとは思って、未だやや戦力不足の感はない。(私が知らないだけなのかもしれない...)

武田と上杉に攻められた駿府はどうしようか? 意見お待ちしています。
(8月6日 壺阪)

<スペース・ふうのHPより>
イベントでのゴミを出さないために食器レンタルをおすすめします。
スペースふうでは食器を貸し出し、使い捨て容器を廃棄処分することによる環境破壊を全国のイベントからなくすことを目的としています。
現在全国各地で開催されているイベントで、飲食に関して使用されている食器はほとんどが使い捨ての容器です。さらにその大部分は廃棄処分時に有毒ガスなどの心配のある発砲スチロール容器です。借りる・使う・返す! 洗浄不要で簡単便利全国で唯一のリユースシステム
お貸した食器はイベント終了後、洗浄などの作業が一切必要ありません。お届けした際のコンテナに収納し返却するだけ・・・だからイベント終了後の作業が軽減されるメリットもあるわけです。
洗浄を独自に行い使いまわすことは衛生上おやめ下さい。
洗浄してまわす場合は、食器を買い取ってお使いいただけます。(85円)

鎌倉市は「環境都市」か 「ゴミ政策大失敗の街」か?

今年、ある静岡市廃棄物担当職員が「鎌倉市を見なさい。行政のことを知らない市長が誕生して、ゴミを減らすと言って、清掃工場を閉鎖して市民に大迷惑をかけた。静岡市はそんなことはしない。壺阪さんはそのことをどう思うのですか?」と聞かれたことがあった。私の予備知識としては「環境都市・鎌倉」というイメージがあった私だが、実は鎌倉のことを正確には知らなかったたので、何も答えることはできなかった。

ほぼ毎日が資源回収日

私の夏休みは八月十五日(十七日)まで義姉を訪ねて鎌倉市で過ごし、三日間古都鎌倉を炎天下歩き回った。夏に強い私には鶴ヶ岡八幡宮周辺は別として、観光客が少なめの鎌倉での寺・神社巡りは好奇心をそそる最高の休日だった。歩き回って気が付いたのだが、毎週2回の焼却ゴミ・紙布の日・ペット剪定木の日・ビンカンプラの日とウィークデーがぎっしり回収するゴミステーションの看板が、50mおきくらいにある。あ

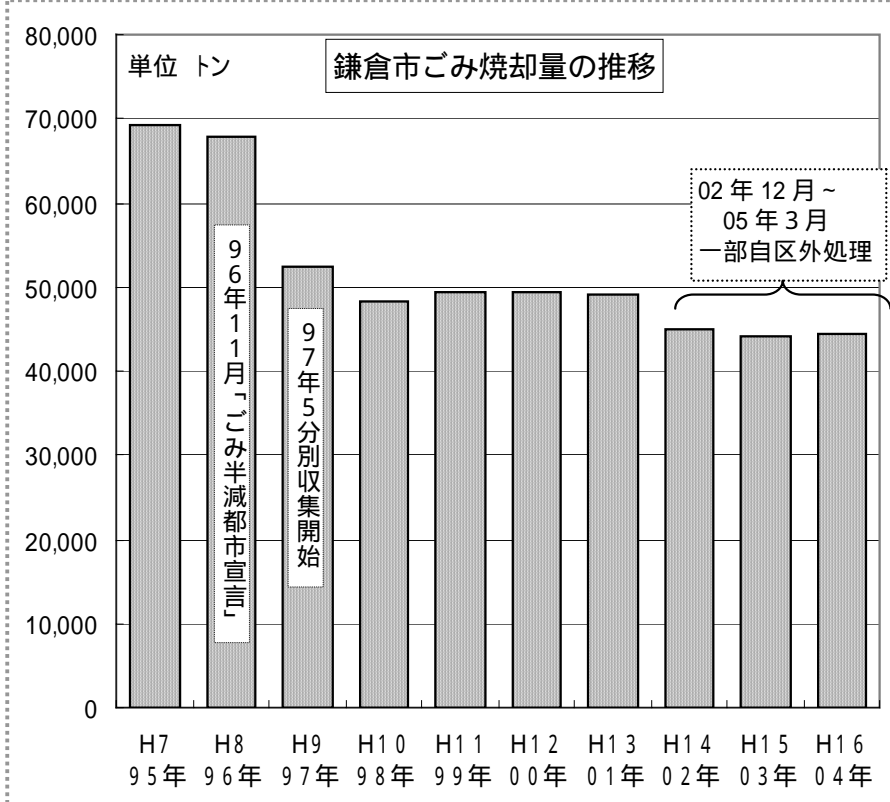
る地区では、ちようと古紙とぼろ布の日で、回収車と出くわした。すると別のもう一台もやってきた。すかさず聞いてみると新聞と古布、ダンボールと雑誌と種別によって委託業者が違っている。聞くと

鎌倉市のある地区の回収予定
グリーンステーション
地区名 × ×

月曜日	燃やすごみ
火曜日	カン・ビン
水曜日	燃えないゴミ危険有害ゴミ第4火曜 ペットボトル 植木剪定材
木曜日	燃やすごみ
金曜日	紙類・布類 容器包装プラスチック

で回っているらしい。ふと静岡市職員の言葉も思い出し、観光の途中に鎌倉市役所資源対策課に立ち寄り、説明を受けながら資料をたどりもらった。その資料はHPからも見ることができ

資料と説明によれば、平成八年十一月(九六年)に「ごみ半減都市宣言」を行い、当時約七万トンあった焼却ゴミを平成十七年(〇五年)までに三万五千トン以下にする「ごみ半減計画」を策定した。分別収集の開始、細分化などにより、翌年で五万二千トンまで急減させたものの現在までの四万トンと緩やかに減少



させていった。実はその間二つあった清掃工場を一時休止をしたが、思うようにごみ減量が進まなかったため、平成十四年十二月(平成十七年三月)まで焼却ごみの一部を他都市に依頼することとなったが、現在は二工場で正常に操業している。家庭系の焼却ごみは一人一日あたりは四一〇gと旧静岡市(七〇四g、十四年)の半分近い。

焼却ゴミは旧静岡市の約半分、更にゼロウェイスト宣言で半減計画

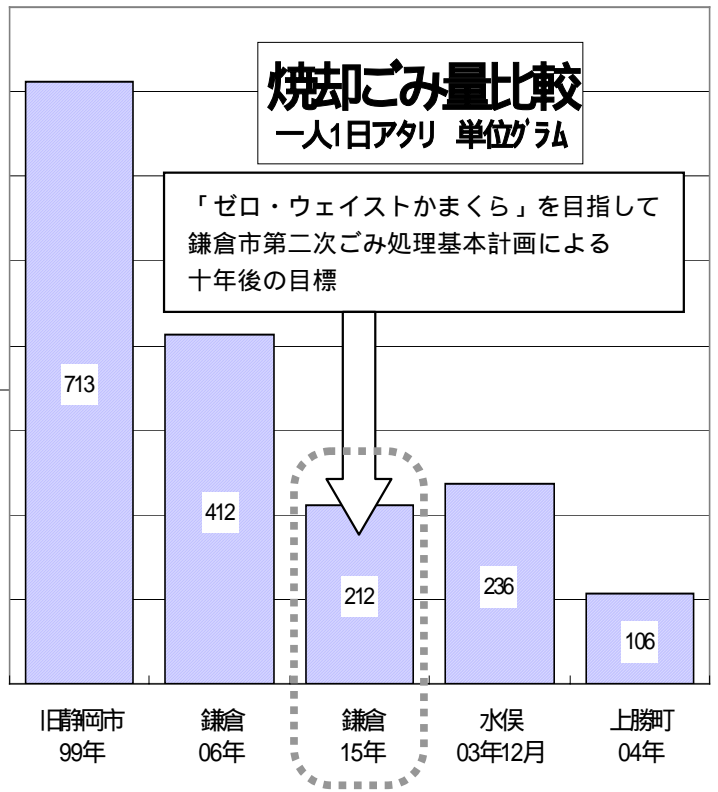
しかも、それに満足するどころか、第二次ごみ処理基本計画で十年後(二〇一五年)に更に半減しようという(一人一日あたり二一〇g)水俣市並・上勝町の二倍程度)挑戦的・大胆なごみ減量計画を立てようとしていた。そこには「ゼロ・ウェイストから」の実現を目指しての文言が踊る。

市民向けの広報紙(四ページ)を見てびっくり、「3R」をメインにしつかり、資源化の流れと資源化の行政負担費

確かに、一時自区内処理がでなかつた時期があった

用が明示されている。基本計画のデータも私が計算し直す必要などほとんどないほど、経費や一人当たりの量・経費が明示され、それを含めたごみ減量計画になっていた。

説明してくれた担当者の「確かに資源化率は上がってきて(43.3%エーの年)、焼却量は減ってきているが、総排出量が変わっていない。リサイクルといっても多くの税金が投入されている。大事なのはリサイクルではなく、リデュース(発生抑制)なんだか



「環境都市」鎌倉から学ぶべきことは、

鎌倉市が「ゴミ政策の大失敗の都市」と見るか、「環境都市」と見るかは明らかである。三日間歩いて、わかったことは鎌倉は歩くことに本当に適した街ということ。周辺には、格安の駐車場(パークアンドライド)があり、市内へはバスでの来訪を歓迎し、駐車場

利用するにはバスの割引がある。歩く町並みは何故か風情がある。(都市景観課によれば、住民の自主的動きにも支えられているらしい)もちろん、厳しさもあるようだが、地域の商店街がまだ生きている。観光資源あふれる古都鎌倉だからできるだと言ってしまうえばそれまでだ。「大失敗」と見るか、「すばらしい」と見るかはひとそれぞれなのかもしれないが、「大失敗」と見る人があまりにも悲しい。(8月20日記 壺阪)

4回目の静岡市灰溶融炉の情報公開請求をしました

8月3日に請求し、16日付けで公開されました。以下の概略です。

(1) 灰溶融炉は未だ十分に動いているとは言えない。

05年の一日あたりの処理量平均は22t。今年一月、七月平均は33t(最大能力は120t)日・操業率30%以下)

(2) 生成されたスラグは少しづつは使われているが、最終処分場の延命効果があるかは

疑問。

昨年7月より、スラグの砂利の代わりに公共工事などに使用が開始されたが、05年七月、06年七月までの十三ヶ月の間に四万二千tの焼却灰が3工場で発生し、結局三万五千tを最終処分場に埋め立てざるをえなかった。

(3) 灰溶融炉の運転コストはトンあたり三万五千円(05年七月、06年七月は、計約五億六千万円・四万九千円/トン)

【誰でも参加できるごみ問題関係の定例会】

「ゴミゼロ静岡」市民ネットワーク定例会
第107回 9月2日(土) 午前10時~
第108回 10月14日(土) 午前10時~
場所 エコアクトおか TEL054-209-8555
<http://homepage2.nifty.com/eoinfo/>

志太ゼロ・ウェイスト市民ネット

第26回会合 9月8日(金) 19時~
場所 アト・焼津3F 焼津公民館
TEL&FAX: 054-628-8455 (村松)
E-Mail: wbs29330@mail.wbs.ne.jp (田中)

清水のゴミを考える会

9月例会 9月12日(火) 午後7時~
場所 静岡市清水社会福祉会館4階 和室
静岡財協 TEL 0543-63-1273
E-mail simizu.fmc@nifty.com

「ゴミゼロ静岡」市民ネットワーク
連絡先: 静岡市駿河区丸子新田 277-4 壺阪道也
& fax 054-257-3177 Email: mirai2@bj.mbn.or.jp

http://www.geocities.jp/sunpu_ecoaction/

